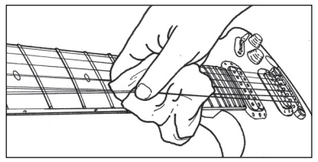
この度はアイバニーズ・ギターをお買い求めいただきありがとうございます。いつまでもベストコンディションでギターをお使いいただくために、お手入れや調整のガイドとして本書をお役立てください。

お手入れ



演奏後は弦の裏側やフレット、ブリッジサドルやナットに付着した汗や脂を拭き取ることで、錆を防ぎます。ボディーやネックの塗装面のよごれは揮発性の薬品や研磨剤を避け、また、こびり付いた汚れは楽器専用ポリッシュを染み込ませた楽器用クロスでていねいに拭き取ってください。オイル仕上げ面の汚れや黒ずみは消しゴムや #1000 以上の細目のサンドペーパー、#0000 スチールウール等で落とし、年に 1 ～ 2 回は無色の家具用仕上げオイルやガンオイルを適度に染み込ませた #0000 スチールウールや布で拭くことで乾燥を防止できます。また、塗装仕上げが施されていない指板面も、指板用オイルや良質のレモンオイルなどを少量含ませた布で、フレットの際までていねいに拭いてください。フレットの錆やくもりは指板面をマスキングテープで保護した上で、# 0000 のスチールウールで磨き、さらにギターケーブルのプラグの先端など、丸く滑らかな金属で磨くことでより滑らかになります。その他、時々、金属部品類のほこりを取り、軽く油を染み込ませた柔らかい布で拭いてください。

チューニング

アイバニーズギターは出荷時に下記のチューニング（開放音：H z）で各部の調整を行っています。

	1 弦	2 弦	3 弦	4 弦	5 弦	6 弦	7 弦
6、7弦ギター	E_4：329.63	B_3：246.94	G_3：196.00	D_3：146.83	A_2：110.00	E_2：82.41	B_1：61.74
4、5弦ベース	G_2：98.00	D_2：73.42	A_1：55.00	E_1：41.20	B_0：30.87	/	/
6弦ベース	C_3：130.81	G_2：98.00	D_2：73.42	A_1：55.00	E_1：41.20	B_0：30.87	/

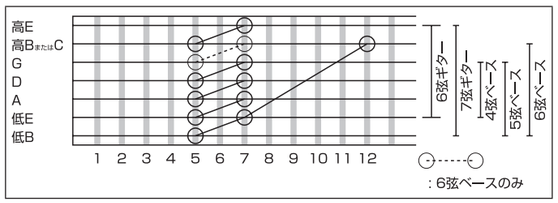
チューニングはチューニングメーターのご使用が便利ですが、市販の音叉等を基準としたハーモニクス（フレット上で弦に軽く触れながら弾いた時の音）調弦も一般的です。

1．A 弦（ギターの５弦、4、５弦ベースの3弦、6弦ベースの４弦）
最初に 440Hz の音叉に A 弦を合わせます。音叉の音は A 弦開放音よりもギターで２オクターブ、ベースで３オクターブ高い音ですので、ギターは５フレット上、ベースでは 17 フレット上でのハーモニクス音が実際の 440Hz の音叉と同じ音程になります。

2．低 E、低 B 弦（ギターの6、7弦、4、5弦ベースの4、5弦、6弦ベースの5、6弦）
1で正しく調弦された A 弦7フレット上のハーモニクス音に、ひとつ低い低 E 弦の５フレット上のハーモニクス音を合わせます。さらに7弦ギターと5、6弦ベースはもうひとつ低い低 B 弦の５フレット上でのハーモニクス音をこの低 E 弦7フレット上ハーモニクス音に合わせます。

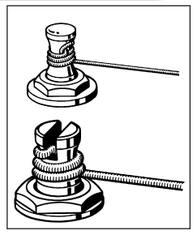
3．D、G 弦（ギターの4、3弦、4、5弦ベースの2、1弦、6弦ベースの3、2弦）
次に A 弦より高い弦に移ります。A 弦よりひとつ高い D 弦７フレット上のハーモニクス音を、 1で正しく調弦された A 弦の５フレット上のハーモニクス音に合わせます。続いてもうひとつ高い G 弦の7フレット上ハーモニクス音を、D 弦５フレット上ハーモニクス音に合わせます。4、５弦ベースはこれですべてのチューニングが完了です。

4．高 B または C、高 E 弦（ギターの1、2弦、6弦ベースの1弦）
続いてギターの場合はさらに高い高 B 弦（2弦）の 12 フレット上ハーモニクス音を低 E 弦の７フレット上ハーモニクス音に合わせます。（7弦ギターの場合はオクターブ違いの低 B 弦に合わせる方法もあります。）6弦ベースについては3までと同様、C 弦7フレット上ハーモニクス音を G 弦５フレットに合わせてすべてのチューニングを完了します。最後に高 E 弦（1弦）は７フレット上ハーモニクス音を、高 B 弦フレット上ハーモニクス音に合わせますが、５フレット上ハーモニクス音が出にくい場合は、１２フレット上ハーモニクス音を A 弦７フレット上ハーモニクス音に合わせる方法やオクターブ違いの低 E 弦に合わせる方法もあります。

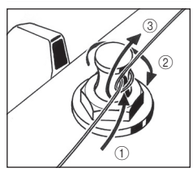


特にフローティング状態のトレモロは、トレモロスプリングとの張力バランスが安定するまで、同じ手順を何度も繰り返してください。

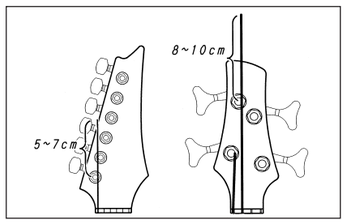
弦・糸巻

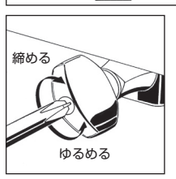


弦は錆や変色が発生したり、音がこもって聴こえる時、あるいはビリつきがひどくなった時にできるだけすべての弦を同時期に交換してください。交換作業は 1 本ごとに行うことで、ネックにかかる力が急激に変化することを防ぎます。 また、異なるゲージに交換した場合はネックの反り具合が変化してしまうため、ネックだけでなく、弦高やイントネーション、各部の再調整が必要になります。各ブリッジの調整方法にしたがって再調整してください。（同じゲージの場合でもイントネーションは弦交換ごとに再調整をおすすめします。出荷時のゲージはベースブリッジ内のゲージ表をご覧ください。）



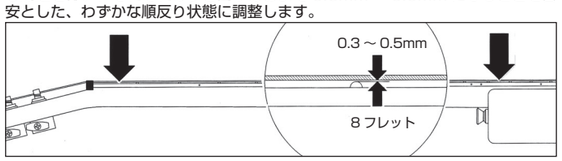
弦は糸巻ポストの上から下へ２～３回、順にきちんと巻きます。ギターの１～３弦は先端を図のように巻くことで、不用意にポスト部から弦が抜けることを防ぎます。また、ポスト内部に弦の先端を挿入するタイプの糸巻は、あらかじめニッパー等で弦の先を切って長さを調整してから巻いてください。
ギア部分が密閉されている糸巻はあらかじめ潤滑油が注入されていますので注油の必要はありません。
また、つまみの先端部分につまみの回転の堅さが調整できるスクリューが付いている糸巻は、プラスドライバーで調整スクリューを締め付けるほどつまみの回転が固くなります。お好みの堅さに調整してお使いください。
粗悪な弦をご使用になると、弦が原因によるビビり音や音程のくるいが生じることがあります。また、弦がねじれたり折れたままでのご使用は、ビビりやサスティーンの劣化を招きます。あらかじめねじれや折れがないことをご確認ください。



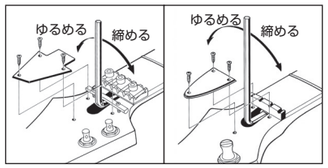


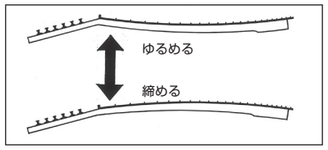
ネック

ネックには弦の張力がかかっています。チューニング状態や弦のゲージが変わったときだけでなく、温度や湿度の変化によっても反り具合が微妙に変化してしまいます。そのため、ネックは内蔵されたアジャストナットを回すことで、反り具合を微調整できる仕組みになっています。 正しくチューニングし、演奏時の状態にギターを持って、1 弦の 1 フレットとボディーとの接合部分にもっとも近いフレットを同時に押さえた状態（1 フレット部にカポタストを装着すると便利です。）で、8 フレット部での弦とフレットのすき間を計ります。同様に低音弦側でも同じ測定を行い、それぞれのすき間がおおよそ 0.3mm ～ 0.5mm になることを目安とした、わずかな順反り状態に調整します。



ネックの形状やボディーとのジョイント方法によって症状はさまざまですが、弦高が高く、高音部の弦ビビりがひどくなり、イントネーションが合いにくい場合は、ネックが順反りしすぎている可能性があり、このすき間が大きくなります。弦高が低くなって低音部の弦ビビりや音づまりが発生する場合は、ネックが逆反り状態になっている可能性があり、このすき間が小さくなります。見た目だけの判断ではなく、症状と合わせた調整が必要です。

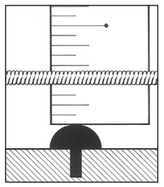




アジャストナットはヘッド側（モデルによってはトラスロッドカバーの内部）か、ネックの付け根側に取り付けられています。 ギターに付属の六角レンチ、またはソケットレンチを使用して、アジャストナットを右方向に締め込むほどネックは逆ゾリ方向に曲がり、左方向にゆるめるほど順ゾリ方向に曲がります。四分の一回転ずつを目安に、少しずつチューニングと調整をくり返してください。

* ネックの調整には十分な注意が必要です。アジャストナットが上手く回らない時や正しく調整できない場合は、無理な調整は避け、お買い求めの楽器店か弊社にご相談ください。

弦高

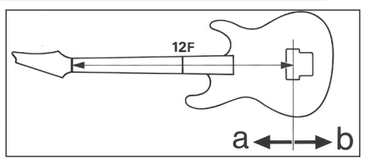


弦高とはフレットと弦との距離を示し、特に弦を押さえたときの演奏性に大きく影響します。正しいネックの反り状態で正しくチューニングを行ってからフレットと弦のすき間を計って判断します。12 フレット部で表の値が一般的な演奏性のための目安となります。
弦高が高すぎると運指が難しくなり、逆に低すぎると弦ビビりや音づまり、サスティーンの劣化が発生します。弦高調整はブリッジ本体またはブリッジサドルの高さを変化させて調整します。下の表にしたがって調整してください。また、ネック調整やゲージの異なる弦への交換後も弦高の再調整が必要です。

	1 弦	最低音弦
ソリッド、セミアコースティックギター	1.5 ～ 1.7mm	2.0 ～ 2.3mm
フルアコースティックギター	1.7 ～ 2.0mm	2.3 ～ 2.5mm
ベースギター	2.0 ～ 2.3mm	2.5 ～ 2.8mm

* 表示以外の弦は 1 弦と最低音弦の間で徐々にすき間が大きくなるように調整します。また、弦高を高くする場合は弦切れの可能性がありますので、あらかじめ弦をゆるめてから調整を行ってください。

弦長（イントネーション）



新しい弦に交換した時やネックの調整を行った後には、すべてのフレットで正しい音程が得られるように、弦の長さを微調整（イントネーション調整）することが必要です。正しくチューニングし、演奏時の状態にギターを持って、それぞれの弦の 12 フレットを押さえた時の音と、12 フレット上でのハーモニクス音がおおよそ等しいかどうかを判断する方法が一般的です。ハーモニクス音を基準として、12 フレットを押さえた音が低い場合はブリッジサドルを前方（ヘッド側）へ移動させて弦長を短くします。逆に高い場合は、ブリッジサドルを後方（ヘッド側と逆方向）へ移動させて弦長を長くします。調整については下記ベースブリッジをご参照ください。

* 正確なイントネーション調整にはチューニングメーターが必要です。特にサドルを後退させる場合は弦切れの原因になりますので、必ず弦をゆるめてから調整を行ってください。

ベースブリッジ

弦のゲージ

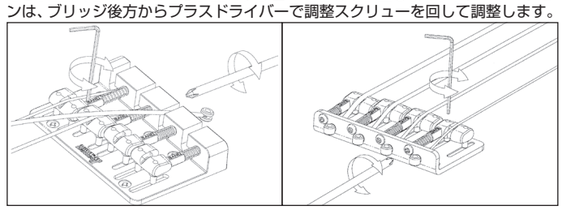
出荷時は右表のゲージを使用して各部の調整を行っています。

モデル	ゲージ
4 弦モデル	.045-.105"
5 弦モデル	.045-.130"
6 弦モデル	.032-.130"

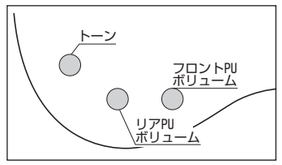
* BTB シリーズは 35" スケールを採用していますので、弦の長さにご注意ください。また特殊なモデルは表と異なる場合があります。

B10/B15/B100/B105/B106 ブリッジ

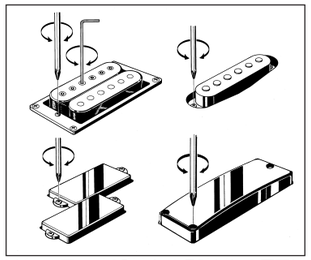
弦高調整は、各サドルの弦高調整スクリューを回して調整します。イントネーションは、ブリッジ後方からプラスドライバーで調整スクリューを回して調整します。



ベースコントローラー



ピックアップ



ピックアップの高さを調整することでも音量や音質が微調整できます。プラスドライバーでピックアップ両側のアジャストスクリューを調整し、最終フレットを押さえた状態でピックアップまたはポールピースと弦のすき間が、ギターで３～５mm、ベースで５～ 10mm程度になる状態が一般的ですが、ピックアップの種類だけでなく、演奏形態やアンプ側の特性によっても異なりますので、実際に音を確認しながら調整してください。 ピックアップと弦の距離が近いほど音量が増しますが、近すぎると音ワレやピックアップの磁力による弦ビビりの原因になります。 逆に距離が遠いほどひずみの少ないクリアな音質になりますが、高域が減少したり音量が低下してしまいます。
ポールピースの高さ調整が可能なタイプは、あくまで各弦ごとのバランス補正として調整してください。ポールピースのタイプによって、マイナスドライバーか付属の六角レンチを使用します。特にマイナススクリュータイプには調整範囲に限りがありますのでご注意ください。

電池

バッテリーを使用するタイプは、音量が小さくなったり音が歪んで聞こえたとき、バッテリー交換が必要です。交換バッテリーは９V ００６P をご使用ください。バッテリーはモデルによってバッテリーボックス、またはコントロールキャビティー内部に収納されています。また、ギターにプラグを差し込むことで電源がオンになります。バッテリーの消耗を防ぐために、長時間ご使用にならないときはプラグを抜いてください。

Ibanez

星野楽器販売株式会社

DEC08JEB ©Copyright 2008

はじめにお読みください

安全にお使いいただくために

本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。この冊子では、安全にお使いいただく上でお気をつけていただきたい点と、お手入れの際の注意点がまとめてあります。
お使いになる前に、取扱説明書とあわせてよくお読みください。

表示記号について

本書では、本機を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために事項を下記の記号で表示しています。

内容をよく理解してから取扱説明書をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
❗お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止をまねく内容を示しています。

- 外部要因によって生じた本機の故障、不具合などの損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠警告

湿気の多い場所では演奏しないでください。

感電の恐れがありますので、直接雨がかかる野外や風呂場などの湿気の多い場所では演奏しないでください。

⚠注意

楽器を振り回さないでください。

プロのステージアクションをまねて、演奏中にギターを振り回したり体のまわりでギターを回したりすると、ギターがストラップから外れたりし、まわりの人に当たってけがをさせるなどの事故の原因になりますのでおやめください。

演奏中に顔を楽器に近づけないでください。

ギターの低音弦やベース等の太い弦が切れた場合、手や顔に当たってけがをする恐れがあります。弦が切れる前にこまめに新しいものと交換してください。特に目に弦が当たった場合などは失明の危険がありますので演奏中に弦に顔を近づけることはおやめください。
ギター、ベース用弦は消耗品です。弦が古くなっていると、通常の弾きかたをしているにもかかわらず（特別に強く弾いたりしなくても）、演奏中に弦が切れてしまう場合があります。

極端な大音量で鳴らさないでください。

ギターアンプ、ヘッドフォンを使用する場合に、長時間大音量で使用していると回復できない難聴になる恐れがあります。またアンプの故障の原因にもなりますので、極端な大音量での使用は避けてください。

さびた弦を使わないでください。

弦（特にギターの1、2、3弦）がさびてくると、弦で指を切ってけがをする恐れがあります。こまめに弦を新しいものと交換してください。

ストラップがゆるんだまま演奏しないでください。

ストラップを使って立って演奏する場合は、ストラップが確実にストラップピンにかかっていることを確認してください。ギターが足の上などに落下してけがをする恐れがあります。

ピックガードの尖ったところに注意してください。

エレクトリックギターの一部のモデルでは、デザイン上ピックガードの先端部分が非常に鋭くなっています。ピッキングの際やクロスで清掃するときなどにけがをしないようにご注意ください。

⚠注意

フレットのエッジ部分でのけがに注意してください。

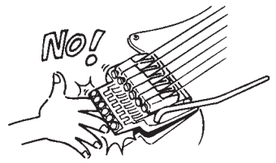
ギターのネックは木製品ですので、モデルによってはまれにネックの乾燥によってフレットがネックからはみ出してくることがあります。このような状態で演奏すると、フレットの端で手を傷つける恐れがあります。万一このようになった場合は、直ちに演奏を中止してお買い求めになった販売店に修理を依頼してください。

無理に弦を張らないでください。

弦を張る場合は、本来の音程以上に強く巻かないよう、チューニングをしながら丁寧に巻いてください。必要以上に強く弦を巻いてしまうと、新品の弦であっても切れてけがをする恐れがあります。また、切れた弦が目に当たった場合などは失明の危険がありますので、弦を交換する際は、弦に顔を近づけることはおやめください。

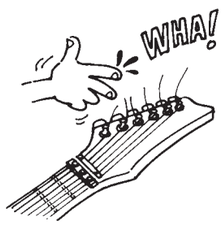
トレモロに指をはさまないよう注意してください。

トレモロシステムには弦の張力を支えるために非常に強いばねを使用しています。弦を交換する場合など、トレモロ部分で指をはさんでけがをしないようにご注意ください。



弦で手を傷つけないよう注意してください。

弦の切断部分（特にギターの1、2、3弦）は非常に鋭くなっており、直接触れると手を傷つける恐れがあります。特にギターのヘッドをクロスなどで清掃する場合に、糸巻きの部分に手が当たってけがをしないようにご注意ください。弦を交換したら、弦の余った部分が指に当たらない程度まで短く切っておきましょう。



換気の悪い場所ではスプレー式クリーナーを使わないでください。

スプレー式のギタークリーナーなどを使用する場合は、換気に注意してください。風通しの悪い場所で使用すると中毒症状を起こす恐れがあります。また可燃性のものは火気に十分注意して作業してください。

ケースのふたやバッグのファスナーを開けたまま持ち運ばないでください。

ギターケース、バッグに入れて持ち運ぶ場合は、ケースの留め金やファスナーがしっかりとかかっていることを確認してください。ふたが開いてギターが落下する場合があります。

❗お願い

古くなった電池を楽器に入れたままにしないでください。

ベースギターやエレクトリックアコースティックギターなど乾電池を使用した製品では、乾電池の液漏れ等にご注意ください。また、乾電池は使用しない場合でも自然に放電してしまう特性がありますので、定期的に交換することをおすすめします。乾電池を捨てる場合は、自治体、電気店等の専用の回収箱をご利用ください。また、使用済みの乾電池を火の中に入れると爆発する恐れがあり非常に危険です。

ギターの表面を樹脂製品などに接触させたまま保管しないでください。

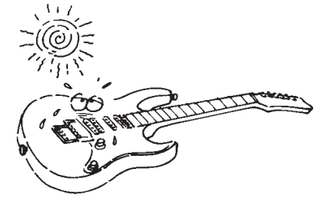
樹脂製品や家具などの塗装されたものに、ギターの表面を直接長時間接触させた場合、色移りしたり溶着したりしてお互い損なう恐れがあります。ギターケース、バッグに入れておくか、布製の袋に入れるなどして直接それらに接触しないように保管してください。

ベンジン、シンナーでは拭かないでください。

ギターの表面をクリーニングする場合にベンジン、シンナー等の薬品を使用すると、変質したり変色したりする恐れがあります。ギター用として販売されているクリーナーをご使用ください。

保管、運送などでは以下のような点にお気をつけてください。

- ギターは木製品です。投げたり落としたりすると容易に破損してしまいます。丁寧にお取り扱いください。
- 高温・多湿の場所、砂やほこりの多い場所を避け、換気の良い場所に保管してください。
- 直射日光が当たると、塗装等の色があせてくる恐れがあります。
- 雨の中で演奏するなどしてギターに直接水分がかかったり、炎天下での演奏など高温の場所に長時間さらされると、ボディー、ネック等の木部に狂いを生じる恐れがあります。



- 宅急便などを利用して輸送する場合は専用のハードギターケースを使用するか、丈夫なカートンを使用して緩衝材を十分つめて梱包し、ワレモノ扱いにしてください。楽器店で購入したときのカートンは運送用には適していない場合があり、そのまま出荷すると破損する恐れがあります。